2027年度 需要見通しの要点

本資料は見本です。会社（A製薬株式会社）・成分（成分X）・他社品目・数値は架空であり、実在の会社・製品とは関係ありません（「当社モデルの実際の検証結果」と明記した6ページの枠と8ページの「予測精度について」だけは実際の値です）。構成、図表、分析の枠組みは実際の会社別版と同じです。

後発品の数量の3分の1強が限定出荷・供給停止となる中、御社（A製薬）の後発品内シェアは2025年4〜6月に2024年度平均を上回り、月を追って上昇した。**このシェアが低下するか、維持されるか、さらに上昇するか**を3つのシナリオで示し、判別するためのモニタリング指標を設定した。

2027年度の御社数量（シナリオB）
170.1百万錠
シナリオA〜Cで 156.7〜182.1。市場が2024年度並みならBは 161.8（2ページ）

今後6か月（2026年12月〜2027年5月）
89.2百万錠
シナリオA〜Cで 82.1〜95.4

市場全体の変動を含む参考幅（6か月）
68.7〜114.6
的中率8割に補正した幅（7ページ）

表1 シナリオ別の御社数量（百万錠、全診療・公費を除く、処方数量ベース）

シナリオ		後発品内シェア 2026→2027年度	数量 2026→2027年度	数量 6か月	数量 12か月
シナリオA	2024年度の水準に低下	32.7% → 32.7%	156.7 → 156.7	82.1	156.7
シナリオB	2025年4〜6月の水準を維持	35.5% → 35.5%	170.1 → 170.1	89.2	170.1
シナリオC	上昇が継続	37.6% → 38.0%	180.2 → 182.1	95.4	182.1

前提条件

- 市場全体（錠・OD錠）は分類Zの投薬延日数と同率で推移する【仮定】。2026・2027年度は 540.8百万錠（2024年度は 514.3）。乖離時の影響は2ページ。
- 後発品比率（後発品の数量割合）は起点の 88.6% で一定とした。NDB月次の院外 89.7% を全診療ベースに換算した値。
- 御社の後発品内シェアは2024年度平均 32.7%、2025年4〜6月平均 35.5%。1ポイントの低下で2027年度は約4.8百万錠減少する（シナリオAは下限ではない）。
- 薬価改定・制度変更の影響は織り込んでいない。

モニタリング指標

- **医薬品の供給状況**：他社品の限定出荷・供給停止の割合（現在 37.3%）。45%以上でC、25%未満でA（4ページ）。
- **NDBの公表値**：月次の次回公表分と、2025年度の年度集計における御社シェア（4ページ）。
- **参考指標**：御社出荷の伸び÷分類Zの伸び。成分の伸び率（年0〜3.6%【仮定】）で基準値が変動するため、単独では判断しない（5ページ）。
- **冬季のピーク**：分類Zの季節パターン（2月は月平均の1.19倍）を適用。規模の見込みではシナリオを変えない（5ページ）。

計画見直しの時期と判断材料

見直しの対象は20mg（御社数量の82.7%）。10mgは構成比で連動させる。
2026年12月まで：冬季のピーク（2027年1〜3月）の生産量を決める前に、供給状況で他社品の出荷制限割合を確認する。
NDBの公表時：月次の次回公表分と2025年度の年度集計（2027年夏〜秋ごろ）で御社シェアを確認する。
次回の確認：供給状況の次回更新と、調剤医療費の動向（2026年7月分）。いずれも12月ごろ【推測】。

6か月・12か月の幅は参考値。同じ方法による予測区間の過去の的中率が 64%（6か月）・68%（12か月。見本のための架空の値）にとどまったため、幅をいずれも1.60倍に広げた。**成分X錠そのものでは検証していない。**シェアの変動は幅に含めず、シナリオで扱う。数量は処方ベースで、御社の出荷・在庫は反映していない。

出所：厚生労働省「医薬品の供給状況」（2025年1月10日・2025年7月9日・2026年10月23日・2026年11月16日掲載）を加工して作成。「調剤医療費の動向」、NDBオープンデータ（第12回月次・年度）をもとに当社推計。

後発品内シェアのシナリオ設定

起点とする2025年4〜6月の御社の後発品内シェアは 35.5% と推計される（全診療ベース、3か月平均）。今後のシェアは、2024年度の水準 32.7% に低下するシナリオA、起点の水準を維持するシナリオB、2023年度の水準 38.0% まで上昇するシナリオCの3つとした。市場全体と後発品比率の前提は3シナリオ共通である。

図1 御社の後発品内シェア（後発品の錠・OD錠に占める数量割合。全診療・公費を除く、年度）

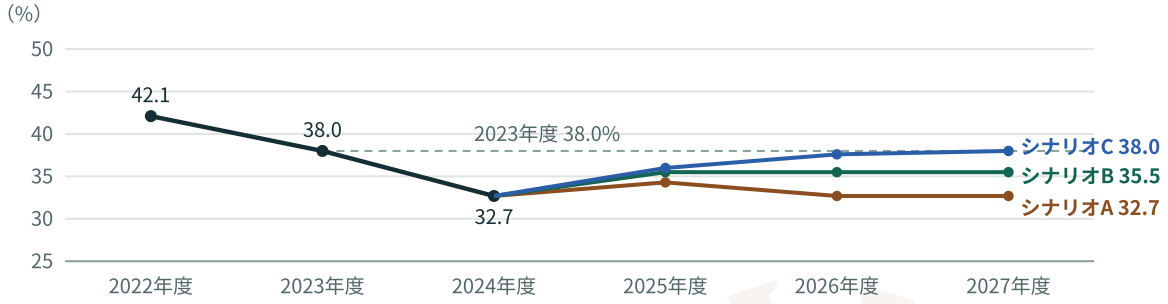


表2 シナリオの設定（起点：2025年6月。右端は2027年度のシェア）

シナリオ	想定	到達シェア	到達期間	2027年度
シナリオA	2025年4〜6月に上昇したシェアが、9か月で2024年度の平均水準に低下する。他社の後発品の出荷が正常化し、新規の処方に対応できるようになる場合。	32.7%	9か月	32.7%
シナリオB	シェアが2025年4〜6月の平均のまま推移する（月次の変動をならすため3か月平均を使用）。なお、本成分のシェアは2022→2024年度に年4.1〜5.3ポイント変動した。	35.5%	—	35.5%
シナリオC	シェアが18か月かけて2023年度の水準まで上昇する（月あたり約0.14ポイント）。他社の後発品の出荷制限が2025年並みに続く場合。	38.0%	18か月	38.0%

図1の2022〜2024年度はNDBの実績、2025年度以降はシナリオ別の推計。市場全体は3シナリオとも分類Zの投薬延日数と同率で伸びるとした【仮定】。伸び率は2025年度 +3.4%、2026年度 +1.7%（2026年4〜6月の前年同期比）、2027年度は横ばい。

市場全体の感度分析（シナリオには含めない）	市場全体 2027年度	御社 2027年度	御社 6か月	ピーク月	中心との比 2026・2027年度
2024年度の水準で横ばい（下振れ）	514.3	161.8	84.8	16.04	0.951・0.951
分類Zの伸びに連動（中心）	540.8	170.1	89.2	16.87	1
分類Zを上回る伸びが継続（上振れ）	618.9	194.7	98.9	18.46	1.094・1.144

表はシナリオBのシェアを前提とした御社数量（百万錠）。中心との比はどのシナリオにも同率で影響する。上振れは、成分Xが分類Zを年1.046倍上回って伸び続ける場合。NDBの2025年度集計で錠・OD錠の合計が 544.0を超えれば上振れ、523.0未満なら下振れに近い。

設定による変動（2027年度）：シナリオBのシェアを6月単月の値 36.9% とすると 176.8 となり、6.7 増える。

シナリオAは下限ではない。2023→2024年度の低下幅の半分（年2.6ポイント）で2024年度から低下が続くと、2027年度のシェアは 24.8%、数量は 118.6。低下が2年で収まる場合は 27.4%・131.3。いずれも参考値で、シナリオには含めない。

シナリオによる御社計画への影響（百万錠）

今後6か月の数量差は、AとBで 7.0、BとCで 6.3。2027年度のAとCの差は 25.4。

ピーク月（2027年2月）は A 15.54、B 16.87、C 18.06。

原薬換算（2027年度、塩としての量）では A 3,157kg、B 3,428kg、C 3,669kg。シナリオBを成分Xとしての表示量で換算すると 3,108kg。表示量×数量で算出し、製造時の歩留まりは含まない。

出所：厚生労働省 NDBオープンデータ（年度・月次）、「調剤医療費（電算処理分）の動向」、各品目の添付文書をもとに当社推計。

シナリオ設定の根拠

2025年4〜6月、御社の後発品内シェアは月を追って上昇した。他社品の出荷制限は2025年より縮小したものの、後発品の数量の3分の1強で続いている。

出荷状況：他社品の限定出荷・供給停止（数量上位5品目）

品目	出荷対応	更新日	2024年度数量
錠20mg「ビー」	限定出荷（自社の事情）	2026-09-14	60.4
錠20mg「シー」	限定出荷（自社の事情）	—	36.0
錠20mg「ディー」	限定出荷（他社品の影響）	—	26.2
錠10mg「ビー」	限定出荷（自社の事情）	2026-09-14	14.0
OD錠20mg「イー」	供給停止	2025-11-27	12.7

2026年11月16日掲載版で限定出荷・供給停止となっている後発品8品目のうち、2024年度の数量（NDB、百万錠）の上位5品目を示す。御社の2品目は通常出荷である。20mgは2025年1月10日掲載版で限定出荷（理由は「需要増」）であったが、その後の更新で通常出荷に戻った。他社品の出荷制限割合 37.3% を出荷量の区分別にみると、「通常」22.6、「増加」9.2、「停止」3.9、「減少」1.6ポイントである。公表情報をそのまま集計した。

NDB月次（院外）：御社シェアは月を追って上昇

月	錠・OD錠	後発品	御社	後発品比率	御社シェア
2025年4月	47.16	42.39	14.81	89.9%	34.9%
2025年5月	38.29	34.09	12.45	89.0%	36.5%
2025年6月	35.38	31.86	12.02	90.1%	37.7%

第12回NDBオープンデータの月次データ（院外、公費込み、百万錠）。公表されたセルの合計であり、秘匿セルの影響は軽微である。御社シェアは後発品に占める割合で、2024年度（院外）は33.4%。

品目区分別の構成比（2024年度と2025年4〜6月）

品目区分（2025年1月10日・7月9日掲載版）	2024年度	2025年4月	6月	4→6月
御社	33.4%	34.9%	37.7%	+2.8
両時点とも限定出荷・供給停止の品目	36.7%	36.2%	34.4%	-1.8
出荷状況が変化した品目	17.8%	17.3%	16.5%	-0.8
両時点とも通常出荷（掲載なしを含む）	12.1%	11.6%	11.4%	-0.2

後発品の錠・OD錠に占める割合（院外、%）。NDBの年度・月次の公表値から算出した。4→6月に、両時点とも限定出荷・供給停止であった品目の割合は -1.8ポイント変化し、御社は月あたり1.40ポイント上昇した。処方がこれらの品目から御社へ移行したとみられるが【推測】、移行元の品目は公表されていない。

シェアと市場の推移（NDB年度、全診療）

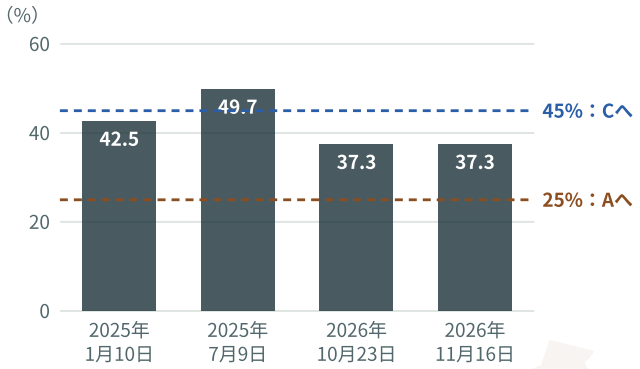
- 御社の数量は2022〜2024年度に 133.7・141.4・143.3百万錠と微増にとどまった。一方、市場全体（錠・OD錠）は385.0→443.9→514.3百万錠と拡大し、御社の後発品内シェアは 42.1%→38.0%→32.7% に低下した。
- 2023→2024年度の市場全体の伸び +15.9% は、両年度とも公表値のある品目に限って算出してもほぼ同じであり、公表範囲の違いによるものではない。
- シナリオCの上昇ペース（月 0.14ポイント）は、2025年4〜6月の上昇ペースの約10%とした【仮定】。シナリオAの到達期間9か月も仮定である。
- 後発品比率にはシナリオを設けていない。錠・OD錠では2025年4〜6月（全診療に換算）で 88.6% と高く、今後の変動は小さいとみて、起点の値で一定とした。

出所：厚生労働省「医薬品の供給状況」（2025年1月10日・2025年7月9日・2026年10月23日・2026年11月16日掲載）を加工して作成。第12回NDBオープンデータ（月次、公費込み）、NDBオープンデータ（年度、公費を除く）。

モニタリング指標と切替基準

シナリオの違いは御社シェアの違いであり、市場全体を対象とする月次統計では判別できない。このため、公表情報である供給状況と、品目単位の統計であるNDBを用いて切り替えを判断する。御社の出荷実績は参考指標とする（5ページ）。

図2 他社品の限定出荷・供給停止の割合（後発品の錠・OD錠の数量比、%）



掲載版ごとの値。限定出荷・供給停止の後発品の2024年度の数量（NDB）を、後発品全体の数量で除して算出した。御社の品目は除く。2025年1月10日掲載版では御社の20mgも限定出荷であり、これを含めると 69.5% となる。掲載版の間隔は一定ではなく、棒の間隔は期間の長さを表さない。

解釈上の留意点

- 切替基準（45%・25%）と、現在の 37.3% をシナリオBの範囲とみなすことは仮定である。45%は、御社シェアが上昇した2025年4〜6月の直後にあたる2025年7月9日掲載版の 49.7% に近い。2025年1月10日掲載版は 42.5% で、同じ2024年度の御社シェアは 32.7% と、シナリオAの水準であった。
- 25%を下回るかどうかは、ほぼ1品目に左右される。現在の割合のうち 13.8ポイントを最大の1品目が占めており、この品目が通常出荷に戻ると 23.5% となる。
- この割合は出荷量の増減を示すものではない。限定出荷でも、出荷量の区分が「通常」「増加」の品目は多い（3ページ）。限定出荷は新規の取引に応じない対応であるため、処方の移行を示す指標として用いる。
- 45%以上に戻るのは、後発品の主要規格が新たに限定出荷・供給停止となる場合である。2026年11月16日掲載版では、後発品31品目のうち限定出荷6、供給停止2で 37.3%。
- NDBの基準値は、隣り合うシナリオのシェアの中間値とした。2025年7〜12月はシナリオ間の差が小さく、2026年1〜3月より前の月では判別が難しい。

表3 モニタリング指標と切替基準

指標	切替基準	確認方法・時期
医薬品の供給状況：他社品の限定出荷・供給停止品目が後発品の数量（2024年度ベース）に占める割合	45%以上 → C 25%未満 → A その間 → B	掲載の更新ごとに確認（算出方法は図2の注）。現在 37.3%
参考指標：御社出荷の伸び÷分類Zの投薬延日数の伸び（2024年度同月比）	基準値の幅を2か月連続で逸脱した場合にC・Aを検討（幅の中では判別しない）	御社内で確認（5ページの表。数値を当社にご提供いただく必要はない）。成分の伸び率により基準値が変動する
NDB月次の次回公表分：御社シェア（院外、後発品の錠・OD錠）	2026年1〜3月に 36.8%超 → C、35.0%未満 → A	厚生労働省（2025年7月以降分。公表時期は未定）
NDBオープンデータ 2025年度の年度集計：御社シェア（全診療）	35.8%超 → C、34.9%未満 → A	2027年夏〜秋ごろ【推測】
分類Z（内服）の投薬延日数	シェアのシナリオは変更しない（市場全体の水準の確認用。2ページ）	「調剤医療費の動向」（毎月、約4〜5か月遅れで公表）

出所：厚生労働省「医薬品の供給状況」（2025年1月10日・2025年7月9日・2026年10月23日・2026年11月16日掲載）を加工して作成。第12回NDBオープンデータ（月次）、「調剤医療費（電算処理分）の動向」をもとに当社推計。

参考指標と統計の公表予定

御社の出荷の伸びは、参考指標にとどめる。成分Xの伸び率の想定によって基準値が変動し、単独ではシナリオを判別できないためである。

参考指標：御社出荷の伸び÷分類Zの伸び（2024年度同月＝1）

期間	シナリオA	シナリオB	シナリオC	A/B基準値（年0〜3.6%）	B/C基準値（年0〜3.6%）	B（年1.2%上振れ）
2025年10〜12月	1.079	1.129	1.151	1.104〜1.144	1.140〜1.181	1.142
2026年1〜3月	1.050	1.129	1.164	1.089〜1.129	1.147〜1.188	1.142
2026年4〜6月	1.040	1.129	1.178	1.084〜1.164	1.153〜1.238	1.156
2026年7〜9月	1.040	1.129	1.191	1.084〜1.164	1.160〜1.245	1.156
2026年10〜12月	1.040	1.129	1.204	1.084〜1.164	1.166〜1.252	1.156
2027年1〜3月	1.040	1.129	1.208	1.084〜1.164	1.169〜1.254	1.156

御社の出荷（受注）の2024年度同月比を、分類Zの投薬延日数の同じ比で除した値。シナリオの値は、成分Xが分類Zと同率で伸びる場合のものである。成分Xはこれまで分類Zを上回って伸びてきたため、基準値は年0〜3.6%上回るとした幅で示し【仮定】、幅の中では判別しない。幅の上限がシナリオCの値に近い期間は、この比だけではシナリオCと判断できない。2か月連続で幅を逸脱した場合に限り、供給状況・NDBと併せて判断する。
2024年度のシェアは年度平均である。20mgが2025年1月に「需要増」で限定出荷となったことから、年度内で変動したとみられる【推測】。また、出荷は在庫の変動や出荷先（販売元・卸）の違いにより、処方数量とは一致しない。御社の数値を当社にご提供いただく必要はない。

NDB月次の公表時に照合する値（御社シェア、院外、%）

期間	A	B	C
2025年10〜12月	34.7%	36.3%	37.0%
2026年1〜3月	33.7%	36.3%	37.4%
2026年4〜6月	33.4%	36.3%	37.8%
2026年7〜9月	33.4%	36.3%	38.2%

シナリオ別のシェア（全診療）を、2024年度の院外と全診療の比で院外ベースに換算した値。NDB月次の公表は不定期である。供給状況による切替基準は4ページ。

統計の公表予定

統計	公表見込み	用途
医薬品の供給状況（厚生労働省）	掲載の更新ごと（毎月）	他社品の出荷制限割合によるシナリオの切り替え（4ページ）
調剤医療費の動向 2026年7月分	2026年12月ごろ【推測】	分類Zの投薬延日数（上表の分母）
調剤医療費の動向 2027年2月分	2027年6〜7月ごろ【推測】	冬季のピークの実績確認
NDB月次（2025年7月以降分）	未定（2027年初めごろか【推測】）	御社シェア（院外）を左表と照合
NDBオープンデータ 年度（2025年度分）	2027年夏〜秋ごろ【推測】	御社の2025年度シェア（4ページの基準値）

冬季のピークには、分類Zの平均的な季節パターンを適用した（2月は月平均の1.19倍、8月は0.92倍）。ピークの規模は年によって異なるが、その見込みによって計画のシナリオは変更しない。シナリオを変更するのは、シェアに関する指標が基準値を超えた場合である。

出所：厚生労働省「医薬品の供給状況」を加工して作成。「調剤医療費の動向」（投薬延日数）、第12回NDBオープンデータ（月次）、NDBオープンデータ（年度）。公表見込みは当社の推測。

過去データによる予測精度の検証

2021年度までのデータで再構築したモデルにより2022〜2024年度を予測し、実績と比較した。市場全体の数量は3年先で33%の過小予測となり、御社シェアは1年で約5ポイント変動した。御社の数量に換算すると、シェアの1ポイントの差は2027年度で約4.8百万錠、後発品比率の5ポイントの低下は約9.6百万錠の減少にあたる。

表4 予測誤差（起点：2021年度）

対象	予測方法	1年先	2年先	3年先
成分X（錠・OD錠） 市場全体の数量	前年並み	-10.8%	-22.6%	-33.2%
	当社モデル	-10.8%	-22.6%	-33.3%
	投薬延日数に連動させた推計式	-7.9%	-14.8%	-24.9%
成分X（錠・OD錠） 後発品比率	前年並み	-4.6pt	-6.1pt	-9.3pt
	当社推計式	-2.2pt	-2.1pt	-3.7pt
同類型の成分（後発品の参入から3年超） 数量（誤差の中央値）	前年並み	5.3%	7.3%	11.9%
	当社モデル	6.2%	9.5%	13.9%
同類型の成分 後発品比率（平均誤差）	前年並み	3.2pt	5.8pt	11.1pt
	当社推計式	2.4pt	4.5pt	7.0pt

数量の誤差は「予測÷実績−1」で、マイナスは過小予測を示す。後発品比率の誤差は「予測−実績」をポイントで示す。同類型の成分の行は誤差の絶対値。表4は見本のための架空の値である。

参考：当社モデルの実際の検証結果（この枠内は見本ではなく実際の値） 薬価ベースの年間金額が10億円以上の約710〜760成分について、過去の時点までの処方データだけでモデルを作り直して予測し、のちの実績と比較した。数量の誤差（予測÷実績−1 の絶対値）の中央値は、当年度 6.7%・翌年度 10.1%（「前年並み」とする予測では 10.0%・14.1%、人口構成と傾向による推計式では 8.5%・11.3%）。当年度・翌年度は、本資料では2026年度・2027年度にあたる（表4の「1〜3年先」とは数え方が異なる）。翌年度は、検証した3回の起点のうち1回（新型コロナの影響を受けた起点）で人口構成と傾向による推計式より誤差が大きかった。成分や類型によっては前年並みの方が誤差の小さいこともあり（表4は架空の例）、これより大きく外れる成分もある。

誤差の傾向

- 市場全体の数量は、前年並みの予測・当社モデルとも1年先で -10.8%、3年先で -33.2% と、同程度の過小予測であった。
- 投薬延日数に連動させた推計式は、誤差がやや小さかった（3年先 -24.9%）。ただし、中心値は分類Zの伸びまでしか見込んでおらず、成分Xがそれを上回って伸び続ければ過小予測となる（2ページ）。
- 後発品比率は、当社推計式の誤差が前年並みの予測より小さかった（3年先 -3.7pt 対 -9.3pt）。
- 御社シェアは、2022→2023年度に -4.1ポイント、2023→2024年度に -5.3ポイント変動した。起点の値で一定とすると、1年でこの程度の誤差が生じうる。このため、シナリオの幅（32.7〜38.0%）を同程度に設定した。

モデルへの反映

- 市場全体の中心値を分類Zの伸びに連動させ、幅は類似成分の過去の予測誤差から設定した。
- 御社シェアをシナリオに分け、供給状況とNDBにより切り替える方式とした（御社の出荷は参考指標）。
- 6か月・12か月の幅は、過去の的中率を検証したうえで拡大した（7ページ）。

残る限界

- 御社シェアの公表値は2025年6月分が最新である。2025年7月以降の動向は、供給状況の更新とNDBの次回公表まで確認できない。
- 供給状況の切替基準（25%・45%）とシナリオの到達期間は仮定である。他社の出荷が正常化する時期は、予測の対象としていない。

出所：厚生労働省 NDBオープンデータ（年度）をもとに当社検証。2021年度までのデータで再構築したモデルによる2022〜2024年度の予測と実績を比較した。表4は見本のための架空の値。枠内の実際の検証結果は、NDBオープンデータ（年度）をもとに当社検証。

月次の予測区間の検証（見本のための架空の値）

同じ方法で作成した6か月の予測区間は、過去の的中率が64%にとどまり、目標の80%を下回った。成分X錠の月次系列だけでは的中率を検証できないため、月次統計（調剤医療費の動向）の19系列を用いた。年度の中心値と予測区間を季節パターンで月に配分し、6か月・12か月を合計する方法は、本資料と同じである。

表5 予測区間の的中率（見本のための架空の値。区間は全系列の過去の予測誤差の10〜90%点）

対象期間	検証件数	的中率	8割への補正倍率	下方／上方に逸脱	2019・20年を除く	系列別区間の的中率	同 補正倍率
6か月（12〜5月）	171	64%	1.60倍	30／31	63%	55%	2.60倍
12か月（12〜11月）	152	68%	1.60倍	13／36	67%	56%	2.75倍
年度（1年目）	171	73%	1.30倍	18／28	71%	65%	1.80倍
年度（2年目）	152	62%	1.80倍	15／42	61%	50%	3.10倍

検証結果

- 的中率は6か月で 64%、12か月で 68%と、目標の80%に届かなかった。年度の予測区間でも 73%・62%であった。
- 的中率を8割とするには、区間の幅（対数）を6か月・12か月とも1.60倍に広げる必要がある。系列別の区間では、さらに大きな補正を要する。
- この倍率は、的中率を算出したのと同じ期間で8割に合わせた値である。対象期間は互いに重なり、系列間にも相関があるため、独立した検証件数は見かけより大幅に少ない。今後の的中率は8割を下回る可能性がある。

御社の6か月・12か月への適用（シナリオB、百万錠）

期間	中心	補正前の幅	8割に補正した参考幅
6か月 2026年12月〜	89.2	75.8〜104.3	68.7〜114.6
12か月 2026年12月〜	170.1	137.8〜209.2	121.4〜236.9

シェアの変動はシナリオで扱い、この幅には含めていない。成分X錠そのものでは検証していない参考幅である。計画の範囲はシナリオ（表1）で定め、この幅は市場全体が予測から乖離した場合への備えとする。

表6 シナリオ別の月別数量（御社、2027年度、百万錠）

シナリオ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
シナリオA	12.40	12.27	12.40	12.14	12.01	12.14	12.80	13.06	14.10	15.28	15.54	12.53	156.67
シナリオB	13.47	13.32	13.47	13.18	13.04	13.18	13.89	14.17	15.31	16.58	16.87	13.61	170.09
シナリオC	14.41	14.26	14.41	14.11	13.96	14.11	14.87	15.17	16.39	17.75	18.06	14.57	182.07

月別の値は、年度の数量を分類Zの季節パターンで配分したものである。納品する計画用Excelには、月別・規格別の同じ値を収録する。Excelは、シナリオ別・規格別の月別数量、御社計画の入力、生産量の計算、モニタリング指標、原薬量（kg）などのシートで構成する。御社の計画や出荷実績を入力すると、どのシナリオに近いかと5ページの比が表示される。入力は御社内で行うため、数値を当社にご提供いただく必要はない。

出所：厚生労働省「調剤医療費（電算処理分）の動向」をもとに当社集計。このページの数値は見本のための架空の値。

作成方法とご依頼の流れ

公的データを品目単位で連結したデータベースを基盤に、需要の推計・予測モデルを構築している。

① 公的データの連結データベース
NDBオープンデータ（年度・月次）、薬価基準、医薬品の供給状況、調剤医療費の動向、人口推計、制度関連の通知などを、品目単位で連結している。

→

② 需要の推計・予測モデル
患者数から積み上げる推計式を実績数量に合わせ、直近の伸びと機械学習のモデル（6ページの枠で検証）とも照らす。年度・月・会社・規格の単位に展開し、原薬量（kg）にも換算する。

→

③ シナリオ・指標・予測誤差の開示
数値はすべて推計であることを明記し、幅を付けて示す。シナリオを判別するモニタリング指標と、過去データで検証した予測誤差を毎回開示する。

数量 ＝ 患者数 × 治療率 × 当該製品のシェア × 1人あたり年間使用量
会社別数量 ＝ 数量 × 会社シェア　｜　原薬量 ＝ 数量 × 1単位あたり原薬含量

時点	推計の方法
過去（年度実績のある期間）	NDBの実績数量に推計式を合わせる（シェアや1人あたり使用量を逆算する）
直近（年度集計が未公表の期間）	月次の公的統計で市場全体の伸びを把握し、NDB月次の公表値で品目・会社別のシェアを確認する
将来（来年度以降）	人口動態と、新薬・後発品の参入、薬価改定、選定療養、供給状況などを反映し、シナリオに分ける

- **予測精度について**：当社モデルの実際の検証結果（6ページの枠）では、数量の誤差の中央値は当年度 6.7%・翌年度 10.1%（「前年並み」とする単純な予測では 10.0%・14.1%）で、成分によってはこれより大きく外れる。後発品比率の見通しは、当社推計式の方が誤差が小さかった。このため本レポートでは、単一の予測値ではなく、**計画を見直す時期・規格と、シナリオを切り替えるためのモニタリング指標**を提供する。
- 将来の数値を示すのは市場全体・後発品全体・御社の3つに限り、他社名を付した将来の数値は記載しない。御社の出荷・在庫・受注の数値はお預かりせず、計画用Excelに御社内で入力してご利用いただく。
- 【推測】は公表資料で確認できていない当社の見立て、【仮定】は当社が設定した前提を示す。

資料	公表元	用途
NDBオープンデータ（年度集計・月次）	厚生労働省	品目別の実績数量、会社別シェア
薬価基準、各品目の添付文書	厚生労働省、PMDA	品目・規格、金額、1錠あたり含量（原薬量の換算）
医薬品の供給状況	厚生労働省	出荷制限の状況、他社品の出荷制限割合
調剤医療費（電算処理分）の動向	厚生労働省	月次の伸び、季節パターン、予測区間の検証
人口推計、制度関連の通知（薬価改定など）	総務省、厚生労働省	将来の患者数、制度変更などの前提

ご依頼の流れ

1. **成分・品目をご指定ください。**御社の品目について、本見本と同じ構成のレポートを作成します。
2. **対応の可否を確認し、ご連絡します。**公表データで品目単位まで把握できるかを確認します。論点は成分ごとに設定します。
3. **本見本と同じ構成（本文とデータの付録）のPDFと、計画用Excelを納品します。**

料金　会社別版 1品目 税別198,000円。納期はご相談ください。
お申し込み・ご相談　https://www.healthle.jp/drug-database/outlook

ご利用にあたって　本資料は見本であり、会社・成分・数値は架空である（実際の検証結果と明記した箇所を除く）。実際の会社別版も公開データにもとづく当社の推計であり、将来の数量を保証するものではない。出典資料は各公表元が作成したもので、推計は当社による。

出所：各資料の公表元は上表のとおり。実際の会社別版では、資料ごとにURLと確認日を記載する。

データの付録：目次

本資料は、問いに答える**本文**（1〜8ページ）と、数値の根拠を品目・会社・月の単位で示す**データの付録**（10〜23ページ）からなる。実際の会社別版では、付録の表はすべて計画用Excelにも収める。

目次

ページ	部	表題
1	本文	2027年度 需要見通しの要点
2	本文	後発品内シェアのシナリオ設定
3	本文	シナリオ設定の根拠
4	本文	モニタリング指標と切替基準
5	本文	参考指標と統計の公表予定
6	本文	過去データによる予測精度の検証
7	本文	月次の予測区間の検証
8	本文	作成方法とご依頼の流れ
10	付録A 品目	品目別の処方数量（2022〜2024年度）
11	付録A 品目	品目別の金額（薬価ベース）
12	付録A 品目	会社別の数量と後発品内シェア
13	付録A 品目	規格別の数量と後発品比率
14	付録A 品目	後発品の品目別の数量の動き
15	付録B 御社の見通し	御社の数量の見通し（2025・2026年度、月別）
16	付録B 御社の見通し	御社の数量の見通し（2027年度、月別）と原薬換算
17	付録B 御社の見通し	市場全体と後発品の月別の見込み
18	付録C 月次	直近の月次の実績と季節パターン
19	付録D 供給状況	後発品の出荷対応（品目別）
20	付録D 供給状況	出荷対応の推移と内訳
21	付録E 薬価	薬価の推移
22	付録F シナリオの設定	シナリオの設定と年度ごとの数値
23	付録G 出典と作り方	出典・時点・集計の方法

付録の表は本文と同じ架空の設定から計算しており、合計は本文の数値と一致する。

出所：当社。

見本（実際の検証結果と明記した箇所を除き、会社・成分・数値は架空）

A. 品目別の処方数量（2022〜2024年度）

成分Xの錠・OD錠の全品目（先発品4・後発品31）の処方数量。御社の2品目は「エー」。実際の会社別版では、品目ごとに薬価基準収載医薬品コードと販売名を記載する。

表A1 品目別の処方数量（百万錠、全診療・公費を除く）

品目	会社	区分	2022年度	2023年度	2024年度
錠10mg（先発品）	先発品の会社	先発品	11.5	12.2	13.0
錠20mg（先発品）	先発品の会社	先発品	41.1	43.9	46.4
OD錠10mg（先発品）	先発品の会社	先発品	3.4	3.6	3.8
OD錠20mg（先発品）	先発品の会社	先発品	11.4	12.2	12.9
錠10mg「エー」	A製薬	後発品	23.1	24.5	24.8
錠20mg「エー」	A製薬	後発品	110.6	116.9	118.5
錠20mg「ビー」	B製薬	後発品	39.4	48.5	60.4
錠20mg「シー」	C製薬	後発品	22.4	28.2	36.0
錠20mg「ディー」	D製薬	後発品	14.9	19.6	26.2
錠20mg「ジー」	G製薬	後発品	10.0	12.5	16.0
錠20mg「エイチ」	H製薬	後発品	8.5	11.1	14.9
錠10mg「ビー」	B製薬	後発品	9.6	11.5	14.0
OD錠20mg「イー」	E製薬	後発品	7.6	9.7	12.7
錠20mg「アイ」	I製薬	後発品	9.1	10.6	12.6
錠20mg「ジェイ」	J製薬	後発品	6.2	8.3	11.4
錠20mg「ケー」	K製薬	後発品	6.7	8.3	10.3
錠20mg「エル」	L製薬	後発品	4.5	6.3	9.2
錠20mg「エム」	M製薬	後発品	5.5	6.6	8.0
錠20mg「エフ」	F製薬	後発品	5.2	6.0	6.9
錠20mg「エヌ」	N製薬	後発品	4.1	5.3	6.9
OD錠20mg「ジー」	G製薬	後発品	3.0	4.1	5.7
錠20mg「オー」	O製薬	後発品	2.4	3.6	5.7
錠10mg「ディー」	D製薬	後発品	3.9	4.7	5.7
錠10mg「ジー」	G製薬	後発品	3.0	3.7	4.6
OD錠10mg「イー」	E製薬	後発品	2.8	3.5	4.5
錠10mg「エイチ」	H製薬	後発品	2.1	2.7	3.4
錠10mg「アイ」	I製薬	後発品	2.5	2.9	3.4
錠10mg「シー」	C製薬	後発品	1.8	2.2	2.7
錠10mg「ジェイ」	J製薬	後発品	1.4	1.7	2.3
錠10mg「ケー」	K製薬	後発品	1.6	1.9	2.3
錠10mg「エル」	L製薬	後発品	1.2	1.6	2.3
錠10mg「エム」	M製薬	後発品	1.6	1.9	2.3
錠10mg「エフ」	F製薬	後発品	1.7	2.0	2.3
錠10mg「エヌ」	N製薬	後発品	0.7	0.9	1.1
錠10mg「オー」	O製薬	後発品	0.5	0.7	1.1
先発品 計			**67.4**	**71.9**	**76.1**
後発品 計			317.6	372.0	438.2
合計（錠・OD錠）			385.0	443.9	514.3

出所：厚生労働省 NDBオープンデータ（年度）。品目の対応は薬価基準・添付文書による。当社集計。

A. 品目別の金額（薬価ベース）

薬価ベースの金額＝処方数量×各年度4月の薬価（表E1）。品目の比較のための参考値で、需要（数量）の推計には使わない。合計は丸める前の値から計算しており、行の和と最後の桁で数単位異なることがある。

表A2 品目別の金額（百万円、薬価ベース）

品目	会社	2022年度	2023年度	2024年度
錠10mg（先発品）	先発品の会社	738	754	767
錠20mg（先発品）	先発品の会社	4,636	4,763	4,807
OD錠10mg（先発品）	先発品の会社	218	222	224
OD錠20mg（先発品）	先発品の会社	1,286	1,324	1,336
錠10mg「エー」	A製薬	517	514	486
錠20mg「エー」	A製薬	4,269	4,232	3,993
錠20mg「ビー」	B製薬	1,544	1,785	2,072
錠20mg「シー」	C製薬	892	1,052	1,249
錠20mg「ディー」	D製薬	603	745	927
錠20mg「ジー」	G製薬	423	496	592
錠20mg「エイチ」	H製薬	366	447	559
錠10mg「ビー」	B製薬	218	245	277
OD錠20mg「イー」	E製薬	312	374	456
錠20mg「アイ」	I製薬	397	434	480
錠20mg「ジェイ」	J製薬	274	344	440
錠20mg「ケー」	K製薬	300	349	403
錠20mg「エル」	L製薬	204	268	365
錠20mg「エム」	M製薬	254	285	322
錠20mg「エフ」	F製薬	217	235	251
錠20mg「エヌ」	N製薬	191	232	282
OD錠20mg「ジー」	G製薬	127	163	211
錠20mg「オー」	O製薬	114	160	235
錠10mg「ディー」	D製薬	91	103	116
錠10mg「ジー」	G製薬	73	85	98
OD錠10mg「イー」	E製薬	66	78	93
錠10mg「エイチ」	H製薬	52	63	74
錠10mg「アイ」	I製薬	63	68	74
錠10mg「シー」	C製薬	42	48	55
錠10mg「ジェイ」	J製薬	36	40	51
錠10mg「ケー」	K製薬	41	46	52
錠10mg「エル」	L製薬	31	39	52
錠10mg「エム」	M製薬	42	47	53
錠10mg「エフ」	F製薬	41	45	48
錠10mg「エヌ」	N製薬	19	23	26
錠10mg「オー」	O製薬	14	18	26
先発品 計		**6,879**	**7,063**	**7,135**
後発品 計		11,833	13,063	14,419
合計		18,712	20,126	21,554

出所：厚生労働省 NDBオープンデータ（年度）、薬価基準。当社集計。

A. 会社別の数量と後発品内シェア

後発品の会社ごとの数量と後発品内シェア。御社（A製薬）のシェアは 42.1%・38.0%・32.7% と推移した（本文2ページ）。

表A3 会社別の数量（百万錠）と後発品内シェア

会社	品目数	2022年度 数量	2022年度 シェア	2023年度 数量	2023年度 シェア	2024年度 数量	2024年度 シェア
A製薬	2	133.7	42.1%	141.4	38.0%	143.3	32.7%
B製薬	2	49.0	15.4%	60.0	16.1%	74.4	17.0%
C製薬	2	24.2	7.6%	30.4	8.2%	38.7	8.8%
D製薬	2	18.8	5.9%	24.3	6.5%	31.9	7.3%
G製薬	3	16.0	5.0%	20.3	5.5%	26.3	6.0%
H製薬	2	10.6	3.3%	13.8	3.7%	18.3	4.2%
E製薬	2	10.4	3.3%	13.2	3.5%	17.2	3.9%
I製薬	2	11.6	3.7%	13.5	3.6%	16.0	3.7%
J製薬	2	7.6	2.4%	10.0	2.7%	13.7	3.1%
K製薬	2	8.3	2.6%	10.2	2.7%	12.6	2.9%
L製薬	2	5.7	1.8%	7.9	2.1%	11.5	2.6%
M製薬	2	7.1	2.2%	8.5	2.3%	10.3	2.4%
F製薬	2	6.9	2.2%	8.0	2.2%	9.2	2.1%
N製薬	2	4.8	1.5%	6.2	1.7%	8.0	1.8%
O製薬	2	2.9	0.9%	4.3	1.2%	6.8	1.6%
後発品 計	**31**	**317.6**	**100.0%**	**372.0**	**100.0%**	**438.2**	**100.0%**

シェアは数量（錠）ベース。端数の処理により、シェアの合計が100.0%にならないことがある。将来の会社別の数値は御社のみ示し、他社については実績だけを記載する。

出所：厚生労働省 NDBオープンデータ（年度）。当社集計。

A. 規格別の数量と後発品比率

規格・剤形ごとの数量と後発品比率。錠・OD錠の合計の後発品比率は 82.5%→85.2%。

表A4 規格別の数量（百万錠）と後発品比率

規格	2022年度 数量	2022年度 後発品比率	2023年度 数量	2023年度 後発品比率	2024年度 数量	2024年度 後発品比率
錠10mg	66.2	82.6%	75.1	83.8%	85.3	84.8%
錠20mg	290.6	85.9%	335.7	86.9%	389.4	88.1%
OD錠10mg	6.2	45.2%	7.1	49.3%	8.3	54.2%
OD錠20mg	22.0	48.2%	26.0	53.1%	31.3	58.8%
合計	**385.0**	**82.5%**	**443.9**	**83.8%**	**514.3**	**85.2%**

表A5 御社の規格別の数量（百万錠）

年度	錠10mg	錠20mg	計	20mgの割合
2022年度	23.1	110.6	133.7	82.7%
2023年度	24.5	116.9	141.4	82.7%
2024年度	24.8	118.5	143.3	82.7%

御社の20mgの割合は、原薬量（kg）の換算に使う（2027年度の見通しでは 82.7% で一定とした）。

出所：厚生労働省 NDBオープンデータ（年度）。当社集計。

A. 後発品の品目別の数量の動き

後発品の品目ごとの数量の動き。2023→2024年度に後発品全体は増えたが、御社の2品目は微増にとどまり、増加分の多くは他社の品目に向かった（本文3ページ）。

表A6 後発品の品目別の数量（百万錠）と前年度比

品目	会社	2022年度	2023年度	2024年度	前年度比 2023	前年度比 2024	増減 2024
錠10mg「エー」	A製薬	23.1	24.5	24.8	6.1%	1.2%	0.3
錠20mg「エー」	A製薬	110.6	116.9	118.5	5.7%	1.4%	1.6
錠20mg「ビー」	B製薬	39.4	48.5	60.4	23.1%	24.5%	11.9
錠20mg「シー」	C製薬	22.4	28.2	36.0	25.9%	27.7%	7.8
錠20mg「ディー」	D製薬	14.9	19.6	26.2	31.5%	33.7%	6.6
錠20mg「ジー」	G製薬	10.0	12.5	16.0	25.0%	28.0%	3.5
錠20mg「エイチ」	H製薬	8.5	11.1	14.9	30.6%	34.2%	3.8
錠10mg「ビー」	B製薬	9.6	11.5	14.0	19.8%	21.7%	2.5
OD錠20mg「イー」	E製薬	7.6	9.7	12.7	27.6%	30.9%	3.0
錠20mg「アイ」	I製薬	9.1	10.6	12.6	16.5%	18.9%	2.0
錠20mg「ジェイ」	J製薬	6.2	8.3	11.4	33.9%	37.3%	3.1
錠20mg「ケー」	K製薬	6.7	8.3	10.3	23.9%	24.1%	2.0
錠20mg「エル」	L製薬	4.5	6.3	9.2	40.0%	46.0%	2.9
錠20mg「エム」	M製薬	5.5	6.6	8.0	20.0%	21.2%	1.4
錠20mg「エフ」	F製薬	5.2	6.0	6.9	15.4%	15.0%	0.9
錠20mg「エヌ」	N製薬	4.1	5.3	6.9	29.3%	30.2%	1.6
OD錠20mg「ジー」	G製薬	3.0	4.1	5.7	36.7%	39.0%	1.6
錠20mg「オー」	O製薬	2.4	3.6	5.7	50.0%	58.3%	2.1
錠10mg「ディー」	D製薬	3.9	4.7	5.7	20.5%	21.3%	1.0
錠10mg「ジー」	G製薬	3.0	3.7	4.6	23.3%	24.3%	0.9
OD錠10mg「イー」	E製薬	2.8	3.5	4.5	25.0%	28.6%	1.0
錠10mg「エイチ」	H製薬	2.1	2.7	3.4	28.6%	25.9%	0.7
錠10mg「アイ」	I製薬	2.5	2.9	3.4	16.0%	17.2%	0.5
錠10mg「シー」	C製薬	1.8	2.2	2.7	22.2%	22.7%	0.5
錠10mg「ジェイ」	J製薬	1.4	1.7	2.3	21.4%	35.3%	0.6
錠10mg「ケー」	K製薬	1.6	1.9	2.3	18.8%	21.1%	0.4
錠10mg「エル」	L製薬	1.2	1.6	2.3	33.3%	43.8%	0.7
錠10mg「エム」	M製薬	1.6	1.9	2.3	18.8%	21.1%	0.4
錠10mg「エフ」	F製薬	1.7	2.0	2.3	17.6%	15.0%	0.3
錠10mg「エヌ」	N製薬	0.7	0.9	1.1	28.6%	22.2%	0.2
錠10mg「オー」	O製薬	0.5	0.7	1.1	40.0%	57.1%	0.4
後発品 計		**317.6**	**372.0**	**438.2**	**17.1%**	**17.8%**	**66.2**

前年度比は表の数量（0.1百万錠単位）から計算した。

出所：厚生労働省 NDBオープンデータ（年度）。当社集計。

B. 御社の数量の見通し（2025・2026年度、月別）

御社の数量の見通しを月別・シナリオ別に示す（全診療・公費を除く、百万錠）。シェアは後発品内シェア。2025年4〜6月はNDB月次から推計した起点。

表B1 御社の数量とシェア（2025年度、月別）

月	数量 A	数量 B	数量 C	シェア A	シェア B	シェア C
2025年4月	13.24	13.24	13.24	35.5%	35.5%	35.5%
2025年5月	13.10	13.10	13.10	35.5%	35.5%	35.5%
2025年6月	13.24	13.24	13.24	35.5%	35.5%	35.5%
2025年7月	12.85	12.96	13.01	35.2%	35.5%	35.6%
2025年8月	12.60	12.82	12.92	34.9%	35.5%	35.8%
2025年9月	12.62	12.96	13.12	34.6%	35.5%	35.9%
2025年10月	13.18	13.66	13.87	34.3%	35.5%	36.1%
2025年11月	13.33	13.94	14.21	33.9%	35.5%	36.2%
2025年12月	14.26	15.05	15.41	33.6%	35.5%	36.3%
2026年1月	15.31	16.31	16.76	33.3%	35.5%	36.5%
2026年2月	15.42	16.59	17.11	33.0%	35.5%	36.6%
2026年3月	12.33	13.38	13.85	32.7%	35.5%	36.8%
2025年度 計	**161.5**	**167.2**	**169.8**	**34.3%**	**35.5%**	**36.0%**

表B2 御社の数量とシェア（2026年度、月別）

月	数量 A	数量 B	数量 C	シェア A	シェア B	シェア C
2026年4月	12.40	13.47	13.99	32.7%	35.5%	36.9%
2026年5月	12.27	13.32	13.90	32.7%	35.5%	37.0%
2026年6月	12.40	13.47	14.10	32.7%	35.5%	37.2%
2026年7月	12.14	13.18	13.85	32.7%	35.5%	37.3%
2026年8月	12.01	13.04	13.76	32.7%	35.5%	37.4%
2026年9月	12.14	13.18	13.96	32.7%	35.5%	37.6%
2026年10月	12.80	13.89	14.76	32.7%	35.5%	37.7%
2026年11月	13.06	14.17	15.12	32.7%	35.5%	37.9%
2026年12月	14.10	15.31	16.39	32.7%	35.5%	38.0%
2027年1月	15.28	16.58	17.75	32.7%	35.5%	38.0%
2027年2月	15.54	16.87	18.06	32.7%	35.5%	38.0%
2027年3月	12.53	13.61	14.57	32.7%	35.5%	38.0%
2026年度 計	**156.7**	**170.1**	**180.2**	**32.7%**	**35.5%**	**37.6%**

出所：厚生労働省 NDBオープンデータ（年度・月次）、「調剤医療費（電算処理分）の動向」をもとに当社推計。

B. 御社の数量の見通し（2027年度、月別）と原薬換算

表B3 御社の数量とシェア（2027年度、月別）

月	数量 A	数量 B	数量 C	シェア A	シェア B	シェア C
2027年4月	12.40	13.47	14.41	32.7%	35.5%	38.0%
2027年5月	12.27	13.32	14.26	32.7%	35.5%	38.0%
2027年6月	12.40	13.47	14.41	32.7%	35.5%	38.0%
2027年7月	12.14	13.18	14.11	32.7%	35.5%	38.0%
2027年8月	12.01	13.04	13.96	32.7%	35.5%	38.0%
2027年9月	12.14	13.18	14.11	32.7%	35.5%	38.0%
2027年10月	12.80	13.89	14.87	32.7%	35.5%	38.0%
2027年11月	13.06	14.17	15.17	32.7%	35.5%	38.0%
2027年12月	14.10	15.31	16.39	32.7%	35.5%	38.0%
2028年1月	15.28	16.58	17.75	32.7%	35.5%	38.0%
2028年2月	15.54	16.87	18.06	32.7%	35.5%	38.0%
2028年3月	12.53	13.61	14.57	32.7%	35.5%	38.0%
2027年度 計	**156.7**	**170.1**	**182.1**	**32.7%**	**35.5%**	**38.0%**

表B4 御社の数量の原薬換算（kg）

年度	表示量 A	表示量 B	表示量 C	塩として A	塩として B	塩として C
2025年度	2,950	3,056	3,103	3,254	3,370	3,423
2026年度	2,862	3,108	3,292	3,157	3,428	3,632
2027年度	2,862	3,108	3,326	3,157	3,428	3,669

原薬量＝数量（百万錠）×1錠あたりの表示量（20mg 82.7%・10mg 17.3% の構成で平均 18.27mg）。塩としての量は表示量×1.103。製造時の歩留まりは含まない。

出所：当社推計。表示量は各品目の添付文書による。

B. 市場全体と後発品の月別の見込み

市場全体（錠・OD錠）と後発品の数量の月別の見込み。年度の値を分類Zの季節パターンで月に配分した。後発品比率は起点の 88.6% で一定（本文3ページ）。

表B5 市場全体と後発品の月別の見込み（百万錠）

月	季節指数	市場全体	うち後発品
2025年4月	0.95	42.10	37.30
2025年5月	0.94	41.66	36.91
2025年6月	0.95	42.10	37.30
2025年7月	0.93	41.21	36.52
2025年8月	0.92	40.77	36.12
2025年9月	0.93	41.21	36.52
2025年10月	0.98	43.43	38.48
2025年11月	1.00	44.32	39.26
2025年12月	1.08	47.86	42.41
2026年1月	1.17	51.85	45.94
2026年2月	1.19	52.74	46.72
2026年3月	0.96	42.54	37.69
2026年4月	0.95	42.81	37.93
2026年5月	0.94	42.36	37.53
2026年6月	0.95	42.81	37.93
2026年7月	0.93	41.91	37.13
2026年8月	0.92	41.46	36.73
2026年9月	0.93	41.91	37.13
2026年10月	0.98	44.17	39.13
2026年11月	1.00	45.07	39.93
2026年12月	1.08	48.67	43.12
2027年1月	1.17	52.73	46.72
2027年2月	1.19	53.63	47.52
2027年3月	0.96	43.26	38.33
2027年4月	0.95	42.81	37.93
2027年5月	0.94	42.36	37.53
2027年6月	0.95	42.81	37.93
2027年7月	0.93	41.91	37.13
2027年8月	0.92	41.46	36.73
2027年9月	0.93	41.91	37.13
2027年10月	0.98	44.17	39.13
2027年11月	1.00	45.07	39.93
2027年12月	1.08	48.67	43.12
2028年1月	1.17	52.73	46.72
2028年2月	1.19	53.63	47.52
2028年3月	0.96	43.26	38.33

年度の市場全体：2025年度 531.8、2026年度 540.8、2027年度 540.8（百万錠）。

出所：「調剤医療費（電算処理分）の動向」（投薬延日数・季節パターン）、NDBオープンデータをもとに当社推計。

C. 直近の月次の実績と季節パターン

直近の実績（NDB月次、院外）と、月別の見込みに使った季節パターン。

表C1 NDB月次（院外・公費込み、百万錠）

月	錠・OD錠	後発品	御社	後発品比率	御社シェア
2025年4月	47.16	42.39	14.81	89.9%	34.9%
2025年5月	38.29	34.09	12.45	89.0%	36.5%
2025年6月	35.38	31.86	12.02	90.1%	37.7%
4〜6月 計	**120.83**	**108.34**	**39.28**	**89.7%**	**36.3%**

院外の御社シェアを全診療に直す比は 0.979（2024年度の全診療 32.7% ÷ 院外 33.4%）。起点の御社シェア（全診療）は 35.5%。本文の後発品比率 88.6% は、4〜6月の院外の値 89.7% を全診療に直した起点の値で、2024年度の実績（表A4）とは別である。

表C2 分類Z（内服）の季節パターン

月	季節指数（月平均＝1）
4月	0.95
5月	0.94
6月	0.95
7月	0.93
8月	0.92
9月	0.93
10月	0.98
11月	1.00
12月	1.08
1月	1.17
2月	1.19
3月	0.96
平均	**1.000**

季節指数は分類Zの投薬延日数の月別の形。実際の会社別版では、算出に使った年と、年ごとのばらつきを併記する。

出所：厚生労働省 第12回NDBオープンデータ（月次）、「調剤医療費（電算処理分）の動向」。当社集計。

D. 後発品の出荷対応（品目別）

2026年11月16日掲載版の後発品31品目の出荷対応。限定出荷6・供給停止2品目で、2024年度の後発品の数量の 37.3% にあたる（本文4ページ）。

表D1 後発品の出荷対応（2026年11月16日掲載版）

品目	会社	出荷対応	更新日	出荷量の区分	2024年度数量	後発品に占める割合
錠10mg「エー」	A製薬	通常出荷	—	—	24.8	5.7%
錠20mg「エー」	A製薬	通常出荷	—	—	118.5	27.0%
錠20mg「ビー」	B製薬	限定出荷（自社の事情）	2026-09-14	通常	60.4	13.8%
錠20mg「シー」	C製薬	限定出荷（自社の事情）	—	通常	36.0	8.2%
錠20mg「ディー」	D製薬	限定出荷（他社品の影響）	—	増加	26.2	6.0%
錠20mg「ジー」	G製薬	通常出荷	—	—	16.0	3.7%
錠20mg「エイチ」	H製薬	通常出荷	—	—	14.9	3.4%
錠10mg「ビー」	B製薬	限定出荷（自社の事情）	2026-09-14	増加	14.0	3.2%
OD錠20mg「イー」	E製薬	供給停止	2025-11-27	停止	12.7	2.9%
錠20mg「アイ」	I製薬	通常出荷	—	—	12.6	2.9%
錠20mg「ジェイ」	J製薬	通常出荷	—	—	11.4	2.6%
錠20mg「ケー」	K製薬	通常出荷	—	—	10.3	2.4%
錠20mg「エル」	L製薬	通常出荷	—	—	9.2	2.1%
錠20mg「エム」	M製薬	通常出荷	—	—	8.0	1.8%
錠20mg「エフ」	F製薬	限定出荷（自社の事情）	—	減少	6.9	1.6%
錠20mg「エヌ」	N製薬	通常出荷	—	—	6.9	1.6%
OD錠20mg「ジー」	G製薬	通常出荷	—	—	5.7	1.3%
錠20mg「オー」	O製薬	通常出荷	—	—	5.7	1.3%
錠10mg「ディー」	D製薬	通常出荷	—	—	5.7	1.3%
錠10mg「ジー」	G製薬	通常出荷	—	—	4.6	1.0%
OD錠10mg「イー」	E製薬	供給停止	2025-11-27	停止	4.5	1.0%
錠10mg「エイチ」	H製薬	通常出荷	—	—	3.4	0.8%
錠10mg「アイ」	I製薬	通常出荷	—	—	3.4	0.8%
錠10mg「シー」	C製薬	限定出荷（自社の事情）	—	通常	2.7	0.6%
錠10mg「ジェイ」	J製薬	通常出荷	—	—	2.3	0.5%
錠10mg「ケー」	K製薬	通常出荷	—	—	2.3	0.5%
錠10mg「エル」	L製薬	通常出荷	—	—	2.3	0.5%
錠10mg「エム」	M製薬	通常出荷	—	—	2.3	0.5%
錠10mg「エフ」	F製薬	通常出荷	—	—	2.3	0.5%
錠10mg「エヌ」	N製薬	通常出荷	—	—	1.1	0.3%
錠10mg「オー」	O製薬	通常出荷	—	—	1.1	0.3%
限定出荷・供給停止 計	**8品目**				**163.4**	**37.3%**

数量は百万錠（NDB 2024年度）。「—」は公表の一覧に記載なし（通常出荷の品目は該当なし）。割合は品目の数量を後発品全体の数量で除した値で、端数の処理により本文の値と最後の桁が異なることがある。

出所：厚生労働省「医薬品の供給状況」（2026年11月16日掲載）、NDBオープンデータ（年度）を加工して作成。

D. 出荷対応の推移と内訳

他社品の限定出荷・供給停止の割合の推移と、出荷量の区分別の内訳。シナリオの切替基準（45%・25%）は本文4ページ。

表D2 掲載版ごとの割合（後発品の数量比、2024年度ベース）

掲載版	他社品の限定出荷・供給停止の割合
2025年1月10日	42.5%
2025年7月9日	49.7%
2026年10月23日	37.3%
2026年11月16日	37.3%

表D3 2026年11月16日掲載版の内訳（出荷量の区分別）

出荷量の区分	割合
通常	22.6ポイント
増加	9.2ポイント
停止	3.9ポイント
減少	1.6ポイント
計	**37.3ポイント**

2025年1月10日掲載版では御社の20mgも限定出荷であり、これを含めると 69.5%。実際の会社別版では、掲載版ごとに品目の出荷対応の変化を一覧にする。

出所：厚生労働省「医薬品の供給状況」（2025年1月10日・2025年7月9日・2026年10月23日・2026年11月16日掲載）を加工して作成。

E. 薬価の推移

1錠あたりの薬価（円）。各年度4月に改定されている。

表E1 薬価の推移（円／錠、各年度4月時点）

品目	会社	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
錠10mg（先発品）	先発品の会社	64.2	61.8	59.0	56.1	53.7
錠20mg（先発品）	先発品の会社	112.8	108.5	103.6	98.5	94.4
OD錠10mg（先発品）	先発品の会社	64.2	61.8	59.0	56.1	53.7
OD錠20mg（先発品）	先発品の会社	112.8	108.5	103.6	98.5	94.4
錠10mg「エー」	A製薬	22.4	21.0	19.6	18.5	17.3
錠20mg「エー」	A製薬	38.6	36.2	33.7	31.8	29.8
錠20mg「ビー」	B製薬	39.2	36.8	34.3	32.4	30.3
錠20mg「シー」	C製薬	39.8	37.3	34.7	32.8	30.7
錠20mg「ディー」	D製薬	40.5	38.0	35.4	33.4	31.3
錠20mg「ジー」	G製薬	42.3	39.7	37.0	34.9	32.7
錠20mg「エイチ」	H製薬	43.0	40.3	37.5	35.4	33.1
錠10mg「ビー」	B製薬	22.7	21.3	19.8	18.7	17.5
OD錠20mg「イー」	E製薬	41.1	38.6	35.9	33.9	31.7
錠20mg「アイ」	I製薬	43.6	40.9	38.1	36.0	33.7
錠20mg「ジェイ」	J製薬	44.2	41.5	38.6	36.4	34.1
錠20mg「ケー」	K製薬	44.8	42.0	39.1	36.9	34.5
錠20mg「エル」	L製薬	45.4	42.6	39.7	37.5	35.1
錠20mg「エム」	M製薬	46.1	43.2	40.2	37.9	35.5
錠20mg「エフ」	F製薬	41.7	39.1	36.4	34.4	32.2
錠20mg「エヌ」	N製薬	46.7	43.8	40.8	38.5	36.0
OD錠20mg「ジー」	G製薬	42.3	39.7	37.0	34.9	32.7
錠20mg「オー」	O製薬	47.3	44.4	41.3	39.0	36.5
錠10mg「ディー」	D製薬	23.4	21.9	20.4	19.3	18.1
錠10mg「ジー」	G製薬	24.4	22.9	21.3	20.1	18.8
OD錠10mg「イー」	E製薬	23.7	22.2	20.7	19.5	18.3
錠10mg「エイチ」	H製薬	24.8	23.3	21.7	20.5	19.2
錠10mg「アイ」	I製薬	25.1	23.5	21.9	20.7	19.4
錠10mg「シー」	C製薬	23.1	21.7	20.2	19.1	17.9
錠10mg「ジェイ」	J製薬	25.4	23.8	22.2	21.0	19.7
錠10mg「ケー」	K製薬	25.8	24.2	22.5	21.2	19.8
錠10mg「エル」	L製薬	26.1	24.5	22.8	21.5	20.1
錠10mg「エム」	M製薬	26.4	24.8	23.1	21.8	20.4
錠10mg「エフ」	F製薬	24.1	22.6	21.0	19.8	18.5
錠10mg「エヌ」	N製薬	26.8	25.1	23.4	22.1	20.7
錠10mg「オー」	O製薬	27.1	25.4	23.6	22.3	20.9

2026年4月より後の薬価改定は見通しに含めていない。

出所：厚生労働省 薬価基準（2022年4月〜2026年4月）。当社集計。

F. シナリオの設定と年度ごとの数値

シナリオの設定値と、年度ごとの数値の一覧。将来の年度の御社シェア・数量はシナリオBを示し、A・Cを右に並べた。

表F1 シナリオの設定

設定	値
起点の御社シェア（全診療、2025年4〜6月の平均）	35.5%
シナリオA：到達シェア・到達期間	32.7%・9か月
シナリオB：シェア	35.5%（一定）
シナリオC：到達シェア・到達期間	38.0%・18か月
後発品比率（全診療、起点で一定）	88.6%
市場全体の伸び（2025・2026・2027年度、前年度比）	1.034・1.017・1.000
院外→全診療の換算比（御社シェア）	0.979
御社の20mgの割合・塩の換算係数	82.7%・1.103
供給状況の切替基準	45%以上→C、25%未満→A

表F2 年度ごとの数値（百万錠、全診療・公費を除く）

年度	市場全体	後発品	後発品比率	御社シェア	御社 B	御社 A	御社 C
2022年度（実績）	385.0	317.6	82.5%	42.1%	133.7	—	—
2023年度（実績）	443.9	372.0	83.8%	38.0%	141.4	—	—
2024年度（実績）	514.3	438.2	85.2%	32.7%	143.3	—	—
2025年度（推計）	531.8	471.2	88.6%	35.5%	167.2	161.5	169.8
2026年度（予測）	540.8	479.1	88.6%	35.5%	170.1	156.7	180.2
2027年度（予測）	540.8	479.1	88.6%	35.5%	170.1	156.7	182.1

シナリオAの到達期間、シナリオCの上昇ペース、供給状況の切替基準は当社の仮定である（本文3・4ページ）。

出所：当社推計。実績はNDBオープンデータ（年度）。

G. 出典・時点・集計の方法

表ごとの出典と時点、集計の方法、本レポートの対象外の事項。

表G1 表ごとの出典と時点

表	資料	公表元	時点
表A1〜A5、F2の実績	NDBオープンデータ（年度）	厚生労働省	2022〜2024年度
表C1	NDBオープンデータ（月次）	厚生労働省	第12回（2025年4〜6月）
表B1〜B5、C2	調剤医療費（電算処理分）の動向	厚生労働省	最新の公表月まで
表A2、E1	薬価基準	厚生労働省	2022年4月〜2026年4月
表D1〜D3	医薬品の供給状況	厚生労働省	2025年1月10日〜2026年11月16日掲載
表B4	添付文書（表示量）	PMDA	発行時点の最新
表B1〜B5、F1〜F2	推計・予測	当社	発行日

集計の方法

- 年度は4月〜翌年3月。
- 数量は医療保険で処方された数量（処方数量ベース）。年度の数量は公費を除き、月次は公費を含む（NDBの公表の違い）。
- OD錠は錠と同じ群として数える。規格は錠10mg・錠20mg・OD錠10mg・OD錠20mg。
- 販売名の変更・コードの付け替えがあった品目は、年度をまたいでつなぐ。
- 数値は最後に丸める。合計と内訳の和が最後の桁で異なることがある。

本レポートの対象外

- 御社・他社の出荷量、在庫、卸の在庫（処方数量とは一致しない）。
- 他社の将来の数量（実績だけを記載する）。
- 発行日より後の回収・出荷停止・制度変更などの突発の出来事。
- NDBで公表されない少量の品目（秘匿の範囲）。

ご利用にあたって　本資料は見本であり、会社・成分・数値は架空である（「当社モデルの実際の検証結果」と明記した6ページの枠と8ページの「予測精度について」を除く）。実際の会社別版では、資料ごとにURLと確認日を記載する。

出所：各資料の公表元は上表のとおり。